

わが職場

大日本木材防腐株式会社は1921年（大正10年）に前身となる日本舗装道路株式会社を東京都に創設し木材防腐事業を開始しました。翌年、名古屋市に防腐工場を新設すると同時に本社を名古屋市に移転、社名を大日本木材防腐株式会社と変更し1948年9月に坂出市昭和町で四国工場の創業を開始しました。

当社は社名に表されている通り、「防腐」というコア技術を活かした「防腐枕木」や「防腐電柱」といった保存処理木材を世に送り出しました。これらの製品は、国のインフラ整備を果たすものとして重責を担う分野であり、弊社の礎を築く上で大きな役割を果たしました。しかし高度成長期の到来とともに、枕木や電柱等の工業製品が木製からコンクリート製へと変わっていきましました。そこで弊社では、防腐技術を活かして住宅用防腐木材

土台を開発し、さらにこうした技術やノウハウを基礎として、現在では輸入木材流通、アウトドア用木材、軸組木造アレカット加工、2×4パネル加工、木材邸別流通などを手掛ける総合木材建築資材会社へと発展してまいりました。我々を取り巻く時代環境は立ち止まることなく変化し続けていきます。そんな中、本当に社会から必要とされ続けるためには、変化に対応していける「環境適応企業」とならねばなりません。今後も木材を通じて豊かな社会づくり実現の一翼を担っていきたくと考えています。

現在、四国工場では木材の加圧式防腐薬剤注入加工、2×4パネル加工、アウトドア用木材、及び輸入木材流通などを生産販売しております。生産部門の設備には加圧式防腐薬剤注入加工プラント、2×4パネル組み立てライン、大型の木材加工機械、一般木材加工用電動工具各種、釘打ち機、及びフォークリフトなどがあります。

安全衛生活動に關しましては、本社設置の中央安全衛生委員会において、各部署の安全。パトロール実施結果の検証、安全衛生活動状況、及び課題などの情報を共有し、安全衛生活動推進の方向性を議論しています。四国工場では外部講師による年2回のフォークリフト安全講習、安全。パトロール、週初めのミーティング、及び職場巡視により、安全意識の向上、及び安全配慮に注力しています。また、5S活動推進のため作業終了時はもとより、朝礼後10分間の整理、整頓、清掃を実施するとともに、毎月の改善提案の実施によりひとり月2件提出していただき安全、及び作業環境改善はもとより生産性向上を図るべく活動しています。今後これら安全衛生活動を継続し「ゼロ災害」を目指して安全・安心・快適な職場作りに努めて参ります。

大日本木材防腐株式会社

四国工場

宮脇 宏